

# 「日本における性的虐待研究の変遷」第一報

——医療・福祉・教育・心理・司法の連携のために——

関 東 由 加

**要旨**：本研究では、戦後から2011年までの日本における性的虐待研究を概観し、医療、福祉、心理、司法、教育の性的虐待研究の実態を明らかにし、研究領域および研究内容に対して今後の課題を提示することを目的とした。その結果、医療分野における研究件数が最も多く、教育分野における研究件数が最も少ないことが明らかになった。その内容としては、総論やコラム、セミナーの内容などを扱った項目が最も多く、実態調査を扱った研究が最も少なかった。以上のことから、性的虐待に関しての実態については、未だに明らかになっていない数があると考えられる。

虐待の通告機関としての教育機関の責務は大きいことから、特に発見が難しいとされる「性的虐待」に対して、教育機関への啓発、研究を勧めていくことが必要であると考ええる。

**Key Words**：性的虐待、近親姦、強姦、性暴力、性被害、量的分析、連携

## はじめに

戦後、日本の虐待研究は児童虐待防止法の成立(2000年)とともに、社会的な認知および対策についても検討されてきた。性的虐待は、身体的虐待のように暴力が表面化することなく、かつ発見することが困難である。

児童虐待の通告件数は平成22年度速報によると5万5145件であった(宮城、福島を除く)。これは1990年に厚労省が全国の児童相談所における虐待の対応件数を公表してからおよそ50倍に増えている。その中で性的虐待の件数は、どの時代においても全体の約1~3%を推移している。性的虐待については、その性質上あらわれているものは氷山の一角ともいえる。これまで身体的暴力の発見、評価、介入については社会の意識も高まりつつあるといえる。しかしながら、性的虐待においては目に見えない状態で行われるため、発見すること、介入することが大変難しい。また発見されるまで一年以上かかるケースもある(神奈川, 2004)。各関係機関との連携の重要性も説かれているが、領域によって認識にずれがあり、そこから発見や介入が立ち遅れているケースも実際にあり、死亡事例として取り上げられる例も残念ながら続いている状態

である。加えて、被害年数が長いほど、治療についても複雑で困難なものになり(杉山, 2007)、安心して生活し、非加害親との安定した親子関係が構築することが難しい状態も報告されている(岡本, 2011)。

子どもの虹情報研修センター(2010)が2007年以前までの性的虐待についての文献研究を行っているが、それ以降の報告はない。本研究においては、戦後の日本における性的虐待研究を概観し、医療、福祉、心理、司法、教育の性的虐待研究の実態を明らかにし、その関連文献を基に子ども性的虐待発生背景に関する要因を検討し、性的虐待研究および性的虐待予防対策について今後の課題を提示することを本研究の目的とする。

## 研究方法

データ収集のためのデータベースは検索エンジンCiNiiを用いて戦後(1952年)から2011年3月末までのものを収集する。そのキーワードとして、「性的虐待」、「性虐待」、「近親相姦」、「近親姦」、「性被害」、「性的被害」、「性暴力」、「強姦」、「レイプ」、「強姦未遂」、「レイプ未遂」、「性的暴力」、「性暴行」、「強制わいせつ」(未遂を含む)、「スクールセクシャルハラスメント」を抽出した。抽出後、「子ども(子供・こど

も)」「児童」「女児」「女子」「未成年」「少女」をキーワードとして絞り込み、検索をおこなった。抽出された文献から関連文献を辿り、文献を収集する。

## 研究結果

### 1. 総検索件数

CiNii で検索した結果、総検索件数は 2505 件であった。そのうち 20 歳未満の件数は 747 件で総件数の 29.8% であった。子どもに対する性的虐待関連文献数は性的虐待・性虐待の 403 件に近親姦・近親相姦の 35 件を加えた 435 件が抽出された。

### 2. キーワード別分類

CiNii で検索した 2505 件のうち、20 歳未満の 747 件から、キーワード別に分類すると、「性的虐待、性虐待」は 403 件、「近親姦、近親相姦」32 件、「性被害、性的被害」87 件、「性暴力、性的暴力」84 件、「性的暴行、性暴行」1 件、「レイプ、強姦」113 件、「強制わいせつ」15 件、「強姦未遂、レイプ未遂」7 件、「強制わいせつ(未遂含)」0 件、「スクールセクハラ」5 件であった。20 歳未満では、「性的虐待・性虐待」が最も多く見られ、全体の約半数認められた(表 1)。

### 3. 年代別性的虐待論文数の推移

CiNii で収集した「性的虐待、性虐待」の 403 件に、近親相姦・近親姦の 32 件を加えた 435 件の性的虐待関係文献について年代別に分類した。1972 年から 1980 年代は数件であったが、1990 代から徐々に論文数も増え、2000 年以降は急激に論文数が増加している。2000 年以降は、2000 年が 26 件、2001 年が 26 件、2002 年が 28 件、2003 年が 30 件、2004 年が 23 件、2005 年が 26 件、2006 年が 24 件、2007 年が 35 件、2008 年が 46 件、2009 年が 29 件、2010 年が 31 件、2011 年が 33 件というように、30 件前後を推移している。このことから、2000 年の児童虐待防止法の制定や 2008 年の DV 防止法の制定により世間からの注目や関心が高まり、研究数も増加したと考えられる(図 1)。

### 4. 領域別性的虐待論文数

性的虐待関連文献の 435 件を領域別に分類した結果、「医療」が最も多く 146 件で、次いで「社会・福祉」が 102 件であった。次に「その他」が 68 件であった。「その他」の内訳は、コラム、文学、ワークショップ講演集などのものであった。続いて「心理」47 件、「司法」45 件、「教育」21 件、「実態調査」6 件という結果となった。

表 1 キーワード別分類(20 歳未満群)

キーワード	性的虐待 性虐待	近親相姦 近親姦	性的被害 性被害	性的暴力 性的暴力	性的暴行 性的暴行	レイプ 強姦	強制 わいせつ	強姦未遂 レイプ 未遂	強制 わいせつ 未遂	スクール セクハラ	件数
20 歳未満	403	32	87	84	1	113	15	7	0	5	747
%	53.9	4.28	11.6	11.2	0.13	15.1	2	0.93	0	0.66	100

図 1 子どもへの性的虐待  
年代別性的虐待論文数の推移(435 件)  
年代別研究件数

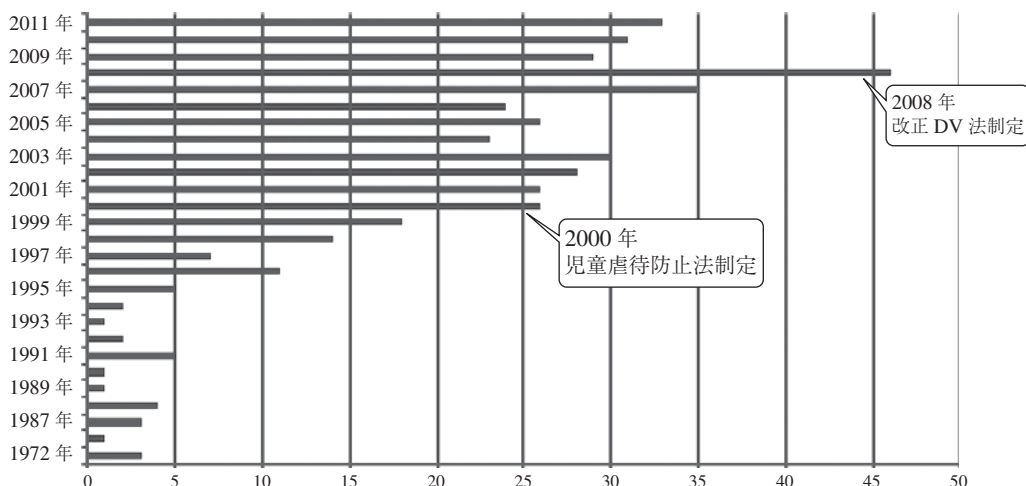


図2 子どもへの性的虐待  
研究領域件数 (435件)

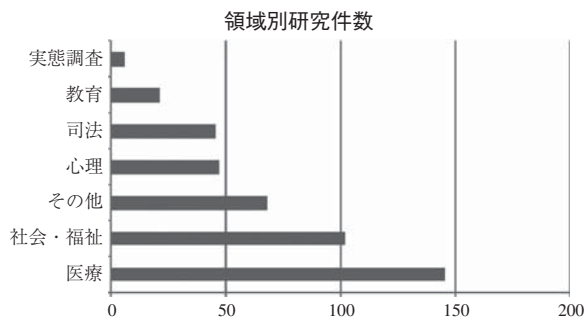


図3 子どもへの性的虐待  
出典別件数 (435件)

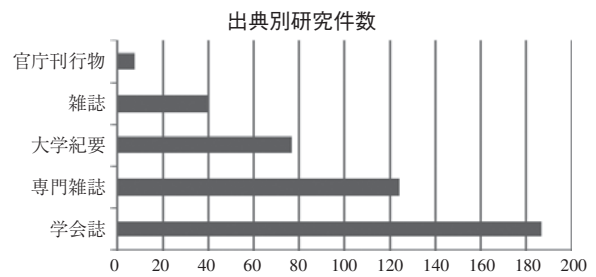


表2 子どもへの性的虐待  
年代別領域件数 (435件)

	医療	社会・福祉	その他	心理	司法	教育	実態調査	計
1972年	1		2					3
1986年				1				1
1987年	1	1	1					3
1988年	1	1	1			1		4
1989年			1					1
1990年	1							1
1991年		3			2			5
1992年	1	1						2
1993年		1			1			1
1994年		1			1			2
1995年	3		1		1			5
1996年	3	3	2		3			11
1997年	1	2	1	1	1	1		7
1998年	5	5	1	1	1			14
1999年	6	5	2	1	1		2	18
2000年	14	4	8					26
2001年	8	5	4	5	3		1	26
2002年	15	3	3	4	2	1		28
2003年	12	7	4	2	3	1	1	30
2004年	8	6	4	2	3			23
2005年	14	1	7	1		3		26
2006年	5	5		6	7	1		24
2007年	16	9	2	3	2	3		35
2008年	10	17	5	7	3	4		46
2009年	8	7	3	4	3	4		29
2010年	4	10	9	3	4		1	31
2011年	9	5	7	4	5	2	1	33
合計	146	102	68	47	45	21	6	435

も1件ずつ研究が行われている。また、児童虐待防止法が制定された2000年以降は、「医療」領域の研究件数も増加しており、その内容についても明らかにしていく必要がある。「心理」領域においては、2000年以降に研究の報告がされており、徐々に増加している傾向である。「福祉・社会」領域の2008年度の研究数の増加については、2008年に制定されたDV防止法の影響が考えられよう。年代に応じた法律の制定や市民運動によって、研究件数の増減が影響されていると考えられる(表2)。

6. 出典別文献件数

文献の出典は、学会誌が最も多く187件、続いて研究会等の専門雑誌が124件、大学紀要77件、週刊文春やnewsweekなどの大衆雑誌である「その他」の分類が39件、警察白書やこども白書などの官庁刊行物が8件であった。出典別では、学会誌が最も多いことが明らかとなったが、その内容については分析が必要であり、研究報告や原著論文、症例報告などについても、詳細な分類が必要であるとする。また論文の質を一定にするために、分析対象とする文献については査読付き形式など、一定の水準を明確にして分類する必要があると考えられる。この点は今後の研究課題である(図3)。

この結果から、「教育」からの報告が最も少ないことが明らかとなった。

領域の分類の仕方については、研究者の属性による分類を行っており、教育雑誌への投稿についても、研究者が医師である場合「医療」領域に分類するといった方法で行った(図2)。

5. 年代別領域件数

1957年から2011年までの性的虐待関連文献435件を、年代別に領域件数を分類した。「医療」の領域においては、戦後から1件ずつではあるが、継続して研究報告がされている。1990年代から各領域において

7. 性別文献件数

CiNiiで抽出した子どもへの性的虐待文献435件の中から、論文の主軸となる研究対象者の性別に応じて「女子」「男子」の二つに分類した。成人男性が未成年時に受けた性被害、性虐待を含む調査がなされているため、男子の内訳に、成人男性を研究対象にした論文も含まれている。その結果、「女子」は432件、「男子」は3件であった。明らかに「女子」を対象にした研究件数が多く認められた。

## ま と め

わが国の戦後の性的虐待に関する研究文献数を検索し、2505件を抽出した。子どもへの性的虐待関連文献は435件を収集し、年代別、領域別、出典別、年代別領域件数、性別件数で分析を行った。年代別では虐待防止法が制定された2000年以後に、急激に研究件数が増加していることが明らかになった。領域別では「教育」の領域からの報告件数が最も少なく、通告機関である「教育」機関の責務は大きく、研究報告が期待される。

法律の制定や市民運動、マスコミに話題を取り上げられることに伴い、研究件数も増加し、啓発活動の結果「児童虐待」の存在も徐々に社会に浸透していき、5万件を超える通告件数という実態に影響を及ぼしていると考えられる。

しかしながら、通告件数の内訳を見ると、性的虐待の通告件数は、身体的、心理的、ネグレクトと比較しても、概ね1~3%を推移しており、未だに性的虐待の実態は氷山の一角と言えよう。また、予想通り男子の性的虐待文献件数は、女子と比べて明らかに少なかった。男子が性被害を受けた場合の法律的な問題（強姦罪が適用されない）や、男子は抵抗できる、そもそも被害はありえない、などといった偏見、性差の心理的影響など、研究課題は山積していると思われる。

今後、子どもへの性的虐待の435件の文献につい

て、内容的な分析を主に家庭の要因について行い、教育領域での問題点などを探っていく予定である。

## 参 考 文 献

- 岡本正子, 渡邊治子 性的虐待・家庭内性暴力を受けた子どもの家庭支援の現状と課題 子どもの虐待とネグレクト 13(2) 2011
- 神奈川県中央児童相談所 神奈川県児童相談所における性的虐待調査報告書 2004
- 杉山登志朗 性的虐待の治療に関する研究 小児の精神と神経 47(4) 2007
- 杉山登志朗 性的虐待の実態とケア 子どもの虐待とネグレクト 13(2) 2011
- 小林登監修 いっしょに考える児童虐待 明石書店 2008
- 池田由子 児童虐待の病理と臨床 金剛出版 1979
- 本間博彰, 小野善郎(編) 子ども虐待と関連する精神障害 中山書店 2008
- 庄司順一, 鈴木力, 宮島清(編) 子ども虐待の理解・対応・ケア 福村出版 2011
- 森田ゆり 子どもの性的虐待 岩波出版 2008
- デイビッド・フィンケルホー(編著) 森田ゆり(訳) 子ども被害者学 岩波書店 2010
- 坪井節子編, 子どもたちと性 子どもの人権双書9, 東京: 明石書店, 2001
- 奥山真紀 性的虐待とその所見, 坂井聖二, 奥山真紀子, 井上登生編, 子ども虐待の臨床, 東京, 南山堂, 2005
- 奥野真紀子, 西澤哲, 森田展彰(編著) 虐待を受けた子どものケア・治療 診断と治療社 2012
- 宮地尚子 男児への性的虐待 小児の精神と神経 46(1) 2006